

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

次期がん対策推進基本計画に向けて小児がん拠点病院および連携病院の小児がん医療・支援の質を評価する新たな指標開発のための研究

研究分担：Quality Indicator 評価から考える課題：単一施設からの報告第2報
分担研究報告書

研究分担者 井上雅美 大阪母子医療センター血液・腫瘍科 主任部長

研究要旨

Quality Indicator (QI)は施設ごとに取り組むべき課題を明らかにすることを目的とするツールとして開発・設計された。H30年度（2018年度）報告では、QI評価を踏まえて大阪母子医療センターが取り組むべき課題を明らかにした。今回、QIデータが確定している2017年～2019年の3年間の指標の推移を評価したところ、取り組むべき課題として挙げられた指標のいくつかに向上が見られ、QIが低下した指標がないことが明らかになった。QI評価は、施設における課題を明らかにするとともに取り組みの成果を評価するためのツールとして有用と考えられた。

A. 研究目的

小児がん医療の質を客観的に評価するツールであるQuality Indicator (QI)評価の推移を経年的に評価することで、自施設の取り組みの成果を明らかにする。

B. 研究方法

QIによる評価を経年的（2017年～2019年の3年間）に行い、評価が低かった指標が改善したかどうか検討する。（倫理面への配慮）

データ評価において倫理的配慮を行った。

C. 研究結果

H30年度（2018年度）報告に示したQI評価の結果、大阪母子医療センターにおいて以下の指標は評価が低いと判断され今後改善すべき課題と考えられた。

小児がん認定外科医数=1

放射線治療専門医=0

専門・認定看護師数=3

専門・認定薬剤師数=1

緩和医療専門医・指導医=0

臨床研究コーディネーター数=3

妊孕性保存提案・実施数：男性患者実数=0

治験実施数=0

表1に示すように2019年の評価では以下の指標において向上が見られ、低下

した指標を認めなかった。

小児がん認定外科医数=2

放射線治療専門医=1

専門・認定看護師数=8

専門・認定薬剤師数=2

治験実施数=1

妊孕性保存提案数(男性及び女性)については向上傾向が認められるが、データ収集方法が主治医申告であることから、今後客観的データ収集を可能にする必要がある。

D. 考察

QIデータが確定している2017年～2019年の3年間の指標の推移を評価したところ、取り組むべき課題として挙げられた指標のいくつかは向上が見られ、QIが低下した指標がないことが明らかになった。QI評価は、施設における課題を明らかにするとともに取り組みの成果を評価するためのツールとして有用と考えられた。

E. 結論

QI評価を継続することで施設ごとに取

り組みを必要とする課題が明らかになり、小児がん診療の向上に役立つと考えられた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

表1 大阪母子医療センターが取り組むべき課題の指標の年次推移

指標番号	項目	2017	2018	2019
指標3	小児がん認定外科医数	1	1	2
指標4	放射線治療専門医数	0	0	1
指標6	専門・認定看護師数	3	4	8

指標 7	専門・認定薬剤師数	1	1	2
指標 8	緩和医療専門医・指導医数	0	0	0
指標 10-1	臨床研究コーディネーター数（施設内）	3	3	3
指標 10-2	臨床研究コーディネーター数（以外）	0	4	4
指標 30-1	妊孕性保存提案数（男性）	0	2	-
指標 30-2	妊孕性保存実施数（男性）	0	1	-
指標 30-3	妊孕性保存提案数（女性）	2	5	-
指標 30-4	妊孕性保存実施数（女性）	1	0	-
指標 31-1	実施治験数	0	1	1
指標 31-2	実施臨床試験数	10	11	10